

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR	i
DAFTAR ISI	v
BAB I	PENDAHULUAN	
1.1	Latar Belakang Masalah	1
1.2	Rumusan Masalah	6
1.3	Tujuan Penelitian	7
1.4	Metode dan Teknik Penelitian	7
	1.4.1 Metode Penelitian	7
	1.4.2 Teknik penelitian	7
1.5	Organisasi Penulisan	8
BAB II	KAJIAN TEORI	
2.1	Sintaksis	9
2.2	Semantik	10
2.3	<i>Joshi</i>	12
	2.3.1 <i>Joshi が</i>	15
	2.3.2 <i>Joshi を</i>	18
BAB III	ANALISIS	
3.1	<i>Joshi が</i>	22
	3.1.1 動詞 (verba)	23
	3.1.2 形容詞と形容動詞 (adjektiva)	29

<i>Joshi</i> を	34
3.2.1 動詞 (verba)	34
3.2.2 形容詞と形容動詞 (adjektiva)	45
BAB IV KESIMPULAN	51
SINOPSIS		
LAMPIRAN DATA		
DATA KORPUS		
BIOGRAFI PENULIS		
DAFTAR PUSTAKA		

日本語の文における月的語を示す「が」と「を」の用法分析

(統語論および意味論からの考察)

ホトマウリ

0342057

マラナタキリスト教大学

文学語日本文学科

バンドン

2008

日本語の文における目的語を示す「が」と「を」の用法分析

1.序論

日本語にはいろいろな助詞がある。助詞が何であるかを見てみよう。

富田 (1991 : 68) は助詞を次のように定義している。

“ 単独で使われることはなく、主として自立語について、補助的な意味を付け加えたり、その自立語と他の自立語との関係を示したりする単語を。” 「助詞」と言います。

助詞「が」と「を」は格助詞に入るものである、富田 (1991 : 68) は、

“格助詞は主に体言に付いて、主として述語とその体言との関連を表すといっている”。

格助詞には「が、の、を、に、へ、と、で、や、より、から」がある。

助詞「が」が対象を示す場合は、動詞の意味的カテゴリ及びその文の後件の状況に依存する一方、助詞「を」が対象を示す場合は、述語が主に動作性のもので、対象に対して働きかけるものである。

本論文は格助詞「が」と「を」が統語論意味論から見て、文において置き換えが可能なかどうか考察するものである。いかなる理由がそれらの置換えが可能また封可能なのかも明らかにする。

2.本論

日本語の文：

- 1) a.わたしは絵が習いたいです。(NSK ; 54 showa : 62)

Watashi wa e ga naritai desu.

Saya ingin belajar gambar.

- b.わたしは絵を習いたいです。

Watashi wa e wo naritai desu.

Saya ingin belajar gambar.

上記の 1a.b) 文の対象語が両方とも「絵」であり、また両方の文の述語が願望を示す「～たい」の「習う」になっている。両文には「を」でも「が」の助詞を使ってもかまわないが、その文のニュアンスは異なっている。

1)a の場合は、話しての志向が「絵」にあるが一方 1b) の場合はそれが「習う」と言う動作にある。

2) a. ここでコピーができます。(MN I; 1998 : 148)

Koko de kopi- ga dekimasu.

Dapat mengkopi disini.

b. *ここでコピーをができます。

Koko de kopi- wo dekimasu.

Mengkopi yang dapat dilakukan disini.

上にあげた文 2)a は両方ともコピーと言う対象語を持っており述語に「できる」という動詞がくる。可能性を表す動詞の場合、普通、助詞「が」を取るのである。コピーは主体である人間の可能表現の対象になっているからである。したがって、「が」と「を」に置き換えることができないのである。

3.結論

3.1 対象を示す「が」

1. 「可能，願望」を表す動詞に付く。(できる、わかる、上手になる、食べられる、読める、聞こえる、見えます、~たい) なに 静動詞 「できる」、絶縁続静動詞 「聞こえる、見えます」。非感情動詞「できる、見える、わかる、聞こえる」に付く。
2. 感情、願望を表す形容詞、形容動詞(嫌い、上手、きれい、ほしい) に付く。

3.2 対象を示す「を」

1. 継続動詞 (読む、洗う、歌う、食べる、買う、教える、書く、~たい) などに付く。
2. 「する」動詞の付いている形容詞。形容動詞「短くします、きれいにします、やすくしますなど」に付く。

上記のデータで見られるように、「が」と「を」がいつも置き換えることはできないのである。置き換えが可能なのは、「～を動詞～たい」及び「～が動詞～たい」の一部にだけである。